

2024年9月9日

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業  
終了時活動報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	散在する在留外国人と地域をつなぐ日本語支援事業
(2) 実施団体名	一般社団法人 にほんごさぽーと北海道
(3) 実施期間	2023 年 10 月 18 日～2024 年 8 月 31 日
(4) 実施国	日本国内
(5) 活動地域	北海道・十勝
(6) 活動概要	<p>①活動の背景： 北海道十勝には約 3,000 人の在留外国人がおり、多くは事業所に雇用され、その数は札幌に次いで多い。十勝地域は農業や畜産業が盛んであり、多くの外国人が地域に散在して就労している。近年では介護業界の外国人材導入も進んでいる。しかし、日本語能力に不安があるため生活に不便を感じたり、コミュニケーションが取りづらいという課題もある。また、多くが地域に散在しているため、在留外国人同士の交流に加え、地域日本人住民との交流も限定的である。そこで、在留外国人に対する日本語支援を行い、彼らの生活や仕事に貢献することが必要とされている。</p> <p>②活動の目標： ★生活の日本語支援は、地域の身近な生活情報を題材に日本語力を向上を目的としたプログラムとする。『やさしい日本語版 十勝の生活ハンドブック』を使用する。 ★仕事の日本語支援は、日本語能力試験対策として学習者の希望に合わせたレベル別（N4、N3）指導を行うが、試験対策にとどまらない日本語の使い手となるようにゴール設定する。 ★地域住民との現地交流は全 3 回程度とし、国際交流に興味のある住民や地元企業にも協力を呼び掛ける。やさしい日本語の事前学習をとおして、外国人との交流に活用してもらう。生活に役立つ情報提供や食の交流などを楽しむ。</p> <p>本事業の開催により、在留外国人の日本語能力が向上し、彼らがより円滑に地域社会に参加できるようになることが期待される。具体的には、以下のような成果を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日常生活や仕事に必要な日本語能力の習得</li><li>・地域社会とのコミュニケーション能力の向上</li></ul> <p>また、本事業を通じて、地域住民としての交流が深まり、相互に興味関心を高め、多文化共生の実現につながるよう貢献したい。</p>

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容

#### 【オンライン日本語教室】

生活の日本語、日本語能力試験（レベル別）をそれぞれ全12回で実施した。参加申し込みは延べ58名、最終的な受講者は50名であった。この人数は複数クラスを選択する参加者がいたため、当初想定していた20名を大きく上回る結果となった。そのため、スムーズなクラス運営のために、各クラスのLINEグループを作成し、授業前日および開始のアナウンスだけでなく、地域話題を提供したり、交流会の告知を行った。

教室の開催は全12回、2024年1月～6月、隔週の火曜日と金曜日に開催した。1月～3月の出席率は概ね80%で推移していたが、在留資格の変更や転職、引っ越しなど生活環境の変化、仕事の繁忙期が重なる受講者が増えた結果、4月以降、出席率が低下した。

担当講師は、以下のような構成で活動を行った。

- ・生活の日本語クラス 2名
- ・N4クラス 2名
- ・N3クラス 3名
- ・代替え講師 2名（会話のサポートも担当）

先に述べた出席率について、受講者のモチベーション維持、教師のモチベーション低下を防止するため、下記のような方法を取り交ぜて行った。

- ・LINEグループへ定期的なメッセージ発信
- ・若手教師によるビデオレター配信
- ・受講者に対する個別ヒアリング
- ・担当講師との意見交換

日本語教室に申し込んだ受講者は、基本的に全3回の地域・異文化交流会の参加特権があったが、教室への参加率は低くとも交流会には積極的に参加する受講者もいた。

#### 【地域・異文化交流会】

<1回目 2024年1月13日（日）>

オンライン日本語教室開講式に合わせて日本文化体験として餅つきと茶道体験を行った。テーブルごとに体験する時間を分散し、必ず体験できるようにした。外国人だけでなく、日本人も杵や臼を使った本格的な餅つきは貴重な体験となったようである。餅つき道具は地域日本人から提供を頂いた。また、参加した地域日本人が餅の成型をしてくれたり、後片付けに協力してくれるなど、活動に積極的に参加する様子が見られた。

<2回目 2024年4月21日（日）>

防災教室は「コミュニティ防災」「防災食づくり」「災害時のやさしい日本語」の3部構成で開催した。それぞれ、防災に関わる講師に登壇していただいた。

「コミュニティ防災」では伴奏支援者でもあるFMわいわいの日比野純一氏に講師依頼した。

阪神淡路大震災の被災地の様子や地域の防災活動について説明があった。また、災害時に役立つ知識として、ダンボールを活用した道具作りを行った。ダンボールはスーパーなどで普段から手に入れやすい材料でもあり、参加者にダンボールを持参してもらうことで、準備段階から参加の意識づけとなるようにした。

「防災食づくり」では、在宅避難となった場合を想定して、家庭にあるフライパンや鍋を利用した防災食づくりを行った。日本の食文化体験も併せた防災食メニューとなった。当団体所在地である音更町生涯学習課の食文化プロデューサーを講師に招き、防災食づくりだけでなく、材料に使用した食材について紙芝居形式で説明いただいた。普段口にしない「和」の材料であるが、日本食への関心にも繋がったと感じた。

最後に防災食を試食しながら「災害時のやさしい日本語」について参加者へ説明した。日本人参加者には事前課題として「やさしい日本語」の変換練習をしてもらったが、交流会では普段から難しい日本語を分かりやすく言い換える必要性について伝えた。やさしい日本語もフェーズフリーとして認識されるようになれば、もっと交流が広がるのではないだろうか。

<3回目 2024年7月14日(日)>

参加申し込みアンケートに「何をしたいか」という項目を設定し、回答にあった活動を交流会で行うことにした。地域日本人、在住外国人それぞれに母国の遊び(ゲーム)についてルールや準備することを考えてもらい、交流会当日は、それぞれリーダーとして参加者に説明をしてもらった。参加していた外国人同士でルール確認をしたり、ゲーム運営に変更が必要になったときは互いに積極的に協力し合う様子が見られた。

アンケートの中に自己紹介や自国紹介をしたいという意見もあり、プログラムの一つとして自己紹介カードの交換を行った。全員が交流できるように2つのグループに分け、持ち寄ったお菓子を食べながら、お互いを知る時間となった。また、本事業の目標でもある外国人同士の交流も活発に行われ、一緒に写真を撮ったり、連絡先を交換する姿も見られた。

#### 【他団体の視察活動】

2024年5月23日～26日の4日間、伴奏支援者に同行いただき、多文化共生先進地の関西および中部で活動している7団体について活動にヒアリングと視察を行った。(敬称略)

中部：一般社団法人ViVarsity、NPO法人 愛伝舎、鈴鹿市教育委員会

関西：NPO法人IKUNO(多文化ふらっと)、神戸定住外国人支援センター

NPO法人神戸外国人救援ネット、マサヤンタハナン

この視察では、団体の活動内容、運営体制(人)、活動資金についてヒアリングを行った。それぞれの団体活動はその地域の多文化共生の中心的存在であり、団体の運営体制も専門家や支援者との繋がりを大切に活動していることが分かった。日本語教室の見学も行い、学習者と支援者のバランスが良くとれていると感じた。学習者の習得したい日本語に対応しており、当団体の日本語教室と相違がなかった。

## (2) 実施成果：

### 【オンライン日本語教室】

受講者の傾向として、真剣に日本語を学びたい、日本語能力試験に合格したい等の意識や目的がはっきりしている場合は出席率も高かった。本事業の中間地点で起こった出席率の低下は運営の工夫がかなり必要だったが、こまめにLINEグループやメール等でクラスへの参加を促した結果、最終的に8名が80%超の出席率となったことは大きな成果である。受講者たちに「日本語能力試験会場でクラスメイトに会える」という目的も追加され、多国籍間交流にもつながったことは非常に嬉しい。

### 【地域・異文化交流会】

日本人参加者は幼児から大人まで幅広い年齢層の参加となった。今後の日本を担っていく小中高生も参加しており、本事業の活動が進学先の検討材料となった学生もいたようである。日本人参加者から「自分のスキルを活用してほしい」との申し出や、外国人参加者から「次回開催時はボランティアとして参加したい」という申し出があった。本事業は「外国人と地域をつなぐ」ことが活動目標であったが、「参加者側から支援者側になる」という想定外の発展となり、地域多文化共生への一歩とを感じる。

交流会での使用言語は「やさしい日本語」とし、事前学習として動画視聴や防災食の説明を「やさしい日本語」で説明する課題に取り組んでもらった。毎回の冒頭に「やさしい日本語」での交流を呼びかけることで、在住外国人も安心して交流会に参加することができた。

### 【告知について】

本事業の告知はSNSを活用した発信以外に、多くの協力を得て周知活動を展開した。オンライン日本語教室はJICA多文化共生担当者や知人への連絡、地域・異文化交流会は十勝総合振興局による行政施設への配架および掲示、当団体活動拠点の音更町は広報掲載、ポスター作製業者は周知先情報や拡散の協力をいただくことができた。多方面から協力が得られたことに感謝し、今後も協力体制が継続できるよう努力したい。

## (3) 得られた教訓など：

学習者の掘り起こしをする際にどこに情報提供するのか、どのような学習者を対象にするのかなど課題は多い。今後の日本語教室を展開する際には、学習者の参加目的、置かれている環境に対応した開催日時、どこに周知をしていくのかを検討したい。また、担当講師のモチベーション維持も重要だと考えており、今後の開催については、有料なのかボランティアベースなのかを考えていく必要がある。

支援する日本語講師、ボランティアコミュニティが必要である。潜在している人材の掘り起こしを行いたい。

災害時は外国人も日本人も同様に被災者であり、支援者にもなる。日頃から災害時対応を知っておくことで、スムーズな行動が可能になる。防災教室を開催し、顔の見える関係性づくりの必要性を改めて感じた。

#### (4) 今後の活動・フォローアップの方針：

「オンライン日本語教室」のLINEグループはそのまま残し、日本語教室や交流会の告知、その他情報提供、災害時の安否確認などに活用し、今後もコミュニケーションを取り続け、関係性をさらに強めていきたいと考えている。

「地域・異文化交流会」を継続して開催したい。継続が可能になれば、本事業に参加した在住外国人と地域日本人との関係性をさらに強めることができると考えている。支援ボランティアを希望した方が活躍できる場にもなる。具体的には、交流会の企画段階からの参画、個々のスキル活用など支援者および参加者が互いの居場所となるよう、人的資源を有効活用できる仕組みを検討したい。

### 3. その他(エピソード・感想・写真など)

#### (1) 活動中のエピソード・感想など

- ・受講者のLINEグループに投稿したメッセージを、一部の受講者がアナウンス機能を利用して重ねて周知してくれた。
- ・オンライン日本語教室の最終回、参加した受講者から担当講師へ、感謝の気持ちを感情豊かな日本語で伝えてくれたことに感動した。
- ・全3回の交流会では日本人と外国人だけでなく、連絡先を交換するなど外国人同士の交流も深まった。定住に結びつくような関係性に発展する可能性も感じた。毎回の交流がとても良い雰囲気、皆さんの笑顔がとても印象的だった。

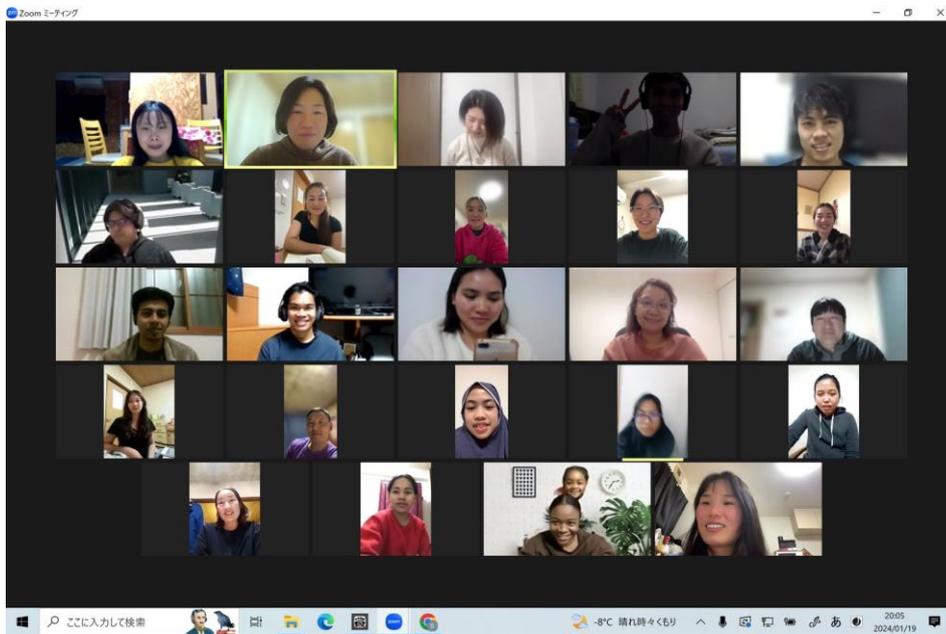
#### (2) 活動の写真

★2024年1月13日

オンライン日本語教室開講式&日本文化体験



★オンライン日本語教室  
2024年1月17日スタート



★4月21日交流会 防災教室  
コミュニティ防災、防災食づくり、災害時のやさしい日本語  
ダンボールを活用した被災時に役立つものづくり  
(講師：FM ワイワイ 日比野純一氏)



★7月14日交流会①

オンライン日本語教室修了式&異文化交流会

参加率80%以上の受講者に修了証、記念撮影の様子



★7月14日交流会②

おにごっこ、インドネシアのゴバックソドル、モルック

在住外国人がリーダーとなり

ゴバックソドルを楽しんだ様子



**(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点**

過去の事業企画は当団体単独での実施が多かったが、本事業では色々な団体や機関の協力をいただきながら活動できたことは非常に大きな成長となった。

また、北海道外の多文化共生活動を視察したことは、団体の在り方や運営方法を知ることができ、当団体の在り方について改めて考える良いきっかけとなった。今後、団体の運営体制の強化を行い、より信頼いただける活動を行っていきたい。